

枚方市立図書館

おすすめの 子どもの本 2020



枚方市キャラクターひこぼしくん

■2018年11月から2019年10月に出版された本の中から、
特におすすめする本を選び、子どもの本に関わる大人の方へ
お伝えするために作成しました。

図書検索は
コチラ →



■本の情報は、書名、著者名、出版社名、図書館での分類記号、対象年齢の順になっています。

2020年4月発行 発行者：枚方市立中央図書館 電話 050-7105-8121 FAX 072-851-0962

えほん

まっくろけまっしろけ

マックス・アマー／作・絵
いけもと なおみ／訳 潮出版社
エホナーアマ【幼児～小学校低学年】

けしごむ君は、紙を真っ白にすることが大好き。えんぴつ君は紙を真っ黒にすることが大好き。えんぴつ君が描いた絵や線をどんどん消していくけしごむ君ですが、えんぴつ君が描いた一面真っ黒になった紙を見て、ぼう然となります。「こんなの全部、消せないよ・・・」。しかし、いろんな消し方をしてみたら意外と楽しく芸術的になりました。性格が正反対の2人ですが、最後は仲良くなります。けしごむ君とえんぴつ君の表情が豊かに描かれている新感覚の文房具絵本です。絵を見ているだけでも楽しめます。



マチルダとふたりのパパ

メル・エリオット／作 三辺 律子／訳
岩崎書店 エホナーエリ【幼児～小学生】

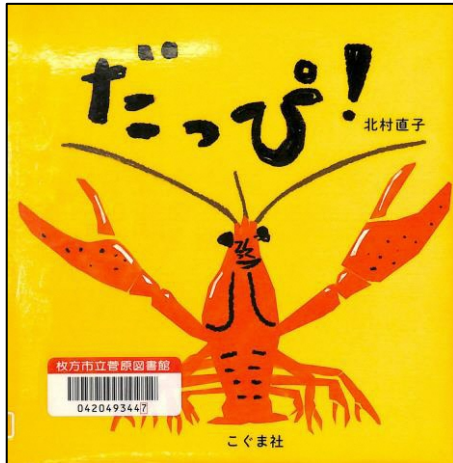
パールの通う学校に、パパと一緒に登校してきた転校生のマチルダ。ふたりはすぐに仲良くなります。次の日、マチルダが「ってきます」の挨拶をしていたのは、昨日のパパとは違うパパでした。パパが2人ということは、自分の家族とは全然違うだろうとわくわくしながらマチルダの家を訪ねたパール。しかし、出てきた夕飯はパールが家で食べているものと同じです。ベッドで飛び跳ねていたら静かにしなきゃだめだよと言われるし、なんにも自分のママとパパと変わらないことに気づきます。多様な家族のかたちに対する前向きで温かいメッセージを受け取ることができる絵本です。



だっぴ!

北村 直子/作 こぐま社 エホン キイローキタ
【乳児～幼児】

脱皮(だっぴ)について乳・幼児向けに描かれた絵本です。ダンゴムシ、ヘビ、イモリ、セミ、ザリガニが次々に脱皮します。最後は人間も脱皮?



それぞれの生きものたちが「もぞもぞもぞ…」と脱皮する様子が、リアルに面白おかしく描かれています。ページをめくるたびに、「だっぴ!」と書かれた文字と脱皮した後の姿がいきいきと表現されています。パターン化された流れやくりかえすリズムが心地よく、親子で楽しめる絵本です。

まほうのさんぽみち

ロビン・ショー/作 せな あいこ/訳
角口 美絵/かき文字
評論社 エホソニーショ 【幼児～小学生】

女の子とパパが一番のお楽しみの場所へと出発します。散歩がてら、あちこち眺めながら女の子は「途中の水たまりにはワニがいるかも?」「列車が通る音はキョウリュウが歩いているみたい。」と想像を膨らませます。



想像の世界は楽しく、様々な世界へといざなってくれますが、パパに先を促されます。やがて女の子の一番のお楽しみの場所、えほんカフェに到着します。散歩の後、パパにぴったりくっついて本を読むのが女の子の大好きな時間で最高のお楽しみです。

こどもかいぎ

北村 裕花/作・絵 フレーベル館
エホソニーキタ 【幼児】

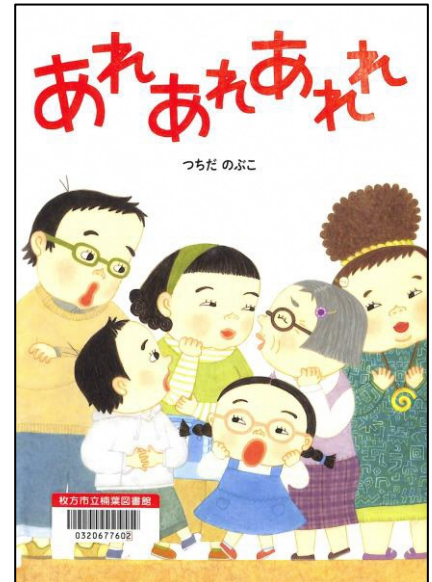
わかばえんで「こどもかいぎ」がはじまりました。お題は『おこられたときはどうしたらいいか』です。いろんな意見がでましたが、「おこられたらまず、ぎゅってするのはどうかな」という意見にみんなが賛成します。けんたくんのお母さんのお迎えがきて、会議は終わりました。おうちに帰ったけんたくん。おもちゃをだしっぱなしにしていたらお母さんがおこりだしました。けんたくんはどうするのでしょうか。こどもたちの素直な気持ちが伝わります。



あれあれあれれ

つちだ のぶこ/作 ポプラ社 エホソニーツチ
【幼児～小学校低学年】

子どもがお母さんに、「あれは?」「あれもちょうだい」「あれってどこにやったかな?」とたずねると、お母さんは何でもわかっちゃいます。おばあちゃんも「あれっ」と言ったら、何かわかります。隣のおばさんも「あれ」で通じます。大人は「あれ」と言うだけで、何でもわかりますが、子どもにはなぜわかるのか不思議です。ユーモラスな絵で描かれた登場人物たちの会話が楽しい絵本です。子どももいつか大人になれば、「あれ」がわかるようになるのかな。



トイレロケット

はっとり ひろき／作 講談社 **エホナーハツ**
【幼児～小学校低学年】

トイレにウンチをしに行く「ぼく」は宇宙飛行士。トイレという名の宇宙へ出発！見開きページの左にトイレの中の「ぼく」、右はロケットに乗り込んだ宇宙飛行士の「ぼく」が描かれています。その対比は最後まで続き、それぞれの発射場面は、迫力いっぱいの画面で圧巻です。ユーモラスな絵で臨場感も楽しめます。トイレトレーニング中の親子で見るともよし、大勢でアハハと笑いながら見るのもよし。トイレに行くのがちょっと楽しくなる絵本です。



いまのわたしにできること

リサ・パップ／作 菊田 まりこ／訳 WAVE出版
エホナーハツ 【幼児～小学校低学年】

犬が飼いたいと、お願いしつづけたマディは、生まれた子犬を分けてもらうことになります。どの子にするか決められません。子犬に選んでもらったらという提案で、目を閉じて「スター」と名前を呼ぶと一番小さな子がひざの上ののってきました。家族のいない一人ぼっちの動物がたくさんいるシェルターのことを知ったマディは、シェルターにいる動物たちもスターと同じように幸せになってもらうために、何か自分にできることはないかと考えてそれを行動にうつします。動物の幸せを思う心あたたまるお話です。



おにいちゃんとぼく

ローレンス・シメル／文 宇野 和美／訳
ファン・カミーロ・マヨルガ／絵 光村教育図書
エホナーマヨ 【幼児～小学校低学年】

ぼくは友達のカルロスの家で遊ぶのが大好きです。ぼくの家ではできない、戦いごっこができるからです。ぼくの家では、お兄ちゃんがどこに何があるのかわかるように、元にあった場所にすぐ戻さないといけません。お兄ちゃんが転ばないように床に物を置くこともできません。でも、お兄ちゃんには凄い所がたくさんあります。なんでも良く覚えているし、暗い部屋でも点々を指でなぞるだけで本が読めるのです。話の途中から兄の目が見えないことがわかりますが、そんな兄を誇りに思う弟の気持ちが感じられます。



かいちゅうでんとう

みやこし あきこ／作 福音館書店
エホナーミヤ 【幼児】

ぼくは真っ暗な部屋でも、懐中電灯を持っているから怖くありません。お兄ちゃんと一緒に自分たちの部屋を探検します。光を当てるといつもの部屋じゃないみたいに見えます。光の当て方で、丸く大きな光が小さくなったり、長細くなったりします。光を揺らすと影が踊り、お兄ちゃんを後ろから照らすと影が巨人になります。窓から外を照らしてみると光の筋が見えます。遊びながら懐中電灯の光と影の世界を楽しめます。黒を基調とした絵が懐中電灯の光を効果的にひきだしています。



日本のものがたり

やぎこ先生いちねんせい

ななもり さちこ／文 大島 妙子／絵
福音館書店 **ヤサシイマツ** 【幼児～小学校低学年】

やぎやま小学校にやってきた「先生1年生」のやぎこ先生が受け持つ入学したての一年生子やぎ8人は、しっかり者・おいしいん坊・恥ずかしがり屋など様々な個性を持っています。



このクラスでは、夏休みの宿題を渡し忘れて、何かしら騒動が起こります。そのきっかけは、いつもやぎこ先生で、毎回校長先生に叱られますが、子やぎ達のアイデアや明るさで乗り越えます。7つのショートストーリー構成で、やぎこ先生と8人の子やぎ達の1年間の成長が描かれています。

大渋滞

いとう みく／作 いつか／絵 PHP研究所
F-イト 【小学校高学年】

麦は小学3年生の女の子。ある日家族4人で、ママの妹の結婚式のため、大渋滞の中、車で名古屋に向かいます。離婚する予定の両親はイライラし、車内の雰囲気は最悪。両親に離婚の理由を聞けず、友達づきあいにも悩む

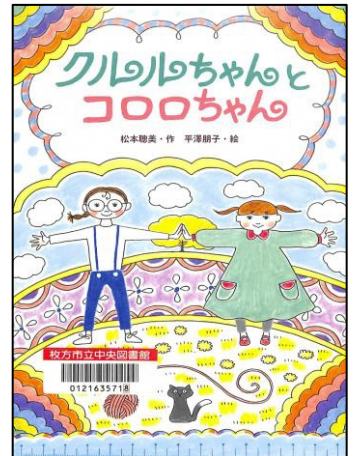


麦は、いつしか眠りこみます。目を覚ますと、車は高速道路の渋滞を避け、一般道で迷走中。麦たちは車を止め休憩しますが、その時ママがエンジンのかかった車のドアをロックしてしまいます。麦たちは、携帯電話で助けを呼ぼうとしますが圏外でつながりません。この出来事に関わるうちに、家族の心は変化していきます。家族の絆と麦の心の成長を描きます。

クルルちゃんとコロロちゃん

松本 聡美／作 平澤 朋子／絵 出版ワークス
ヤサシイマツ 【小学校低学年～小学校中学年】

クルルちゃんとコロロちゃんは同じ学校の同じ学年ですが、あまり話をしたことがありません。二人は日曜日に出かけた広場で出会い、物差し売りのおばさんに、二人の手でピッタリ30センチがはかれる

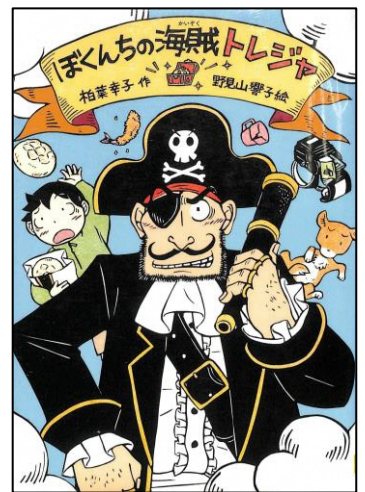


ことを教えてもらいます。自分たちの手や指の長さの単位を知ること、迷子の子猫の大きさを割り出したり、チュロスを均等に半分にすることもできました。はかることの大切さを知り、意気投合した二人はなかよしになります。この本を読むと「はかる」ことが楽しくなります。

ぼくんちの海賊トレジャ

柏葉 幸子／作 野見山 響子／絵 偕成社
F-カシ 【小学校中学年～小学校高学年】

良太が返してもらったマンガを雨除けにして家に帰ると、屋根の上に大きな黒い帆船が乗っかっていました。中から出てきたのは海賊トレジャ。良太にしか見えないトレジャは、「この世の果てにあるという青くて四角でうたうもの。手にし



たとたんしあわせが足のさきからはいあがる。天使のラッパがなりひびく。」というマーメイドの歌にある宝物探しを良太に手伝わせます。良太はトレジャに振り回されながらも宝物を探します。はたしてその宝は見つかるのでしょうか。自分にとっての宝物とは何かを思い出させてくれます。

きつねの時間

藤内 明子／作 大野 八生／絵 フレーベル館
Fータテ 【小学校高学年～中学生以上】

きつねの時間とは、カレーを作る時、玉ねぎを炒めている時間のこと。きっちり材料を量り料理を作る小学6年生のふみは、大ざっぱで料理下手なママと二人暮らしです。ふみは死別したと思っていたパパが本当は行方知れずで、ふみが生まれたことも知らないということを知ります。パパについて何も語らないママにイラだつふみですが、友達や周りの大人たちの話を聞き、自分勝手に思い込んでいた見方が変わっていきます。こじれた人間関係がほどけていく様子が心地よく描かれています。日々の生活の中で行き詰まり感を覚えている子どもたちに読んでほしい物語です。



ゆかいな床井くん

戸森 しるこ／著 講談社 Fートモ
【小学校高学年～中学生以上】

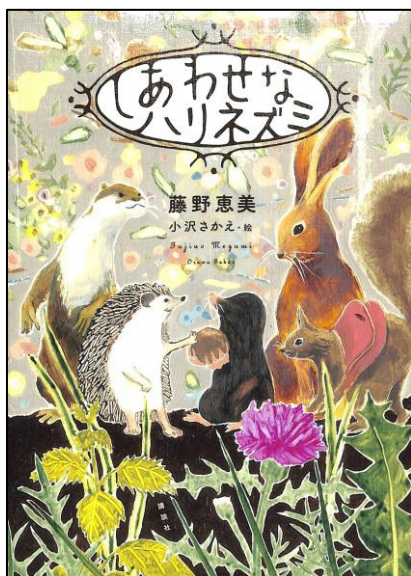
6年生のクラスがえで、最初に暦のとなり席になった床井（とこい）くん。床井くんは少しかわっているけれど、自分の気持ちに正直で、人をゆかいな気持ちにさせてくれます。友達の何気ない言葉に傷ついたり、逆に励まされたりします。自分の意見を言うことは大切だけど、難しいことです。いつも冷静にまわりを見ている床井くんの言葉には説得力があります。思わず床井くんのような子どもがいてほしいと思います。暦と床井くんの卒業までの一年間を短編で綴った物語です。子どもの気持ちを忘れた大人にもおすすめです。



しあわせなハリネズミ

藤野 恵美／作 小沢 さかえ／絵
講談社 Fーフシ 【小学校低学年～小学校中学年】

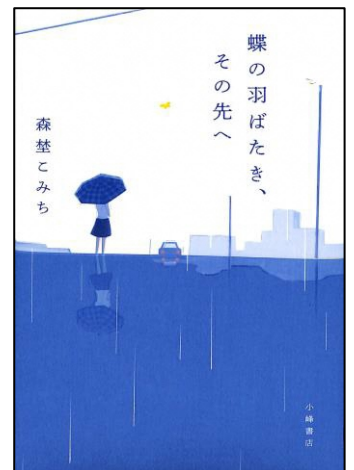
ハリネズミには友達がいません。散歩をするときもひとりですが、平気です。嘘をつくのが嫌いで正直者のハリネズミは、使う言葉もトゲトゲで、知らず知らずのうちに森の仲間を傷つけてしまうこともありましたが、ある日もぐらに出会ったことで、心が少しずつほぐれていきます。ハリネズミは友達と過ごす楽しさ、別れの寂しさを経験します。ひとりだったハリネズミが仲間との触れ合いを通じ、あたたかな感情を知っていく心温まる優しい作品です。



蝶の羽ばたき、その先へ

森埜 こみち／作 小峰書店 Fーモリ
【小学校高学年～中学生以上】

始業式の朝、中学生の結はひどい耳鳴りに襲われます。病院で結に告げられた診断は、左耳の突発性難聴でした。左耳が聞こえないことを知られたくない結は、親友にも何も言わず学校生活を送りますが、聞こえないためにクラスメイトと話題を共有できず、落ち込んでいきます。そんなとき結は手話と出会います。手話サークルで、突発性難聴で両耳が聞こえない今日さんと知り合った結は、誰にも話せなかった不安を打ち明けます。そこから結の心境にも変化が起き、ついに親友に難聴のことを打ち明けます。戸惑いや不安でいっぱいになりながらも、少しずつ前へ進もうとする結の姿と、それを見守る周囲の人の思いが心を打ちます。



外国のものがたい

天才ルーシーの計算ちがい

ステイシー・マカナルティ／著 田中 奈津子／訳
講談社 **N-マカ**【小学校高学年～中学生以上】

雷に打たれ、天才的な数学の能力を手に入れたルーシーは、長く家に引きこもっていたため、友達が一人もいません。見かねた祖母が彼女を学校へ通わせませす。嫌々通うルーシーでしたが、同じクラスのウィンディ、リーヴァイと一緒に動物保護センターを手伝うこととなります。ルーシーは、そこで保護されている末期がんのキューティ・パイという犬に懐かれ可愛がりますが、病気の犬は殺処分が決まっています。ルーシーたちは、キューティ・パイの新しい飼い主探しを始めます。数字が全てだったルーシーが、数字以外の大切なものを見つけるお話です。



ハヤクさん一家とかしこいねこ

マイケル・ローゼン／作 トニー・ロス／絵
ないとう ふみこ／訳 徳間書店
N-ロゼ【小学校低学年～小学校中学年】

ハヤクさん一家のお父さんとお母さんは、ある朝寝坊し、あわてて会社に行きますが、息子のハリーを学校に送るのを忘れてしまいます。ハリーが家に取り残され、学校に行けず困っていると、ハヤクさん一家のネコ、トラーが一目散にお父さんを追いかけます。ハリーは学校に行けるのでしょうか。その夜、ハリーは両親に「もう少し、ゆっくり、準備したり考えたりすればいいんじゃないかな」と提案します。軽快なテンポのストーリー展開と各ページの挿絵に助けられながら、小さな子でも無理なく読めます。

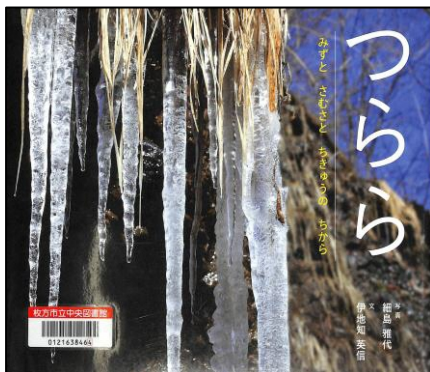


ちしきえほん

つららみずとさむさとちきゅうのちから

細島 雅代／写真 伊地知 英信／文
ポプラ社 **チシキ 451**【幼児～小学校低学年】

寒い冬になると、軒先などに現れる「つらら」。つららという名前の他にも、色々な呼び方があり、日本各地で使われている言葉を記録した『日本言語地



図』には、232種類あると記録されています。滝が凍ってつららになれば、とても大きなものになります。現れる場所によって、大きさも、形も様々です。とけたり、凍ったりを繰り返し、姿をかえていくつららの様子を綺麗な写真を通して見ることができます。家の冷凍庫を使ったつららの作り方も紹介されていて、手軽につららを作ることができます。

みずとはなんじゃ？

かこ さとし／作 鈴木 まもる／絵 小峰書店
チシキ 452【小学校中学年～中学生以上】

暮らしに欠かせない大切な水。その水の性質を身近な問題として科学的に語りかけ、海洋汚染や環境問題も取り上げています。生き物に必要な水を守ることが、いかに大切であるかを説明している知識絵本



です。幼い子どもにもわかるように、水の様々な性質を姿を変える忍者に例えたり、地球環境の温度調節をクーラーや布団に例えて説明しています。この作品は著者かこさとしさんの遺作です。小冊子「かこさとしさんからのおくりもの『みずとはなんじゃ？』ができるまで」が付いています。

たべたらうんち!

ひさかたチャイルド 〔チシキ 481〕
【幼児～小学校低学年】

生き物によって食べるものは違います。食べたらず、不要なものをうんちやおしっことして排出します。この本



ではあおむし、カエル、ミツバチ、カタツムリ、ダンゴムシなど、様々な生き物の食事の様子、うんちの色や形を紹介しています。鮮明な写真で生きものたちの食事とうんちを、幼児にもわかりやすい言葉で説明しています。カタツムリにキュウリ、ニンジン、サツマイモなど、色の違うものを食べさるとうんちの色が変化することがわかります。外に飛び出して生き物たちの食事やうんちを観察してみませんか。

そらのうえのそうでんせん

鎌田 歩/作 アリス館 〔チシキ 544〕
【幼児～小学校中学年】

発電所で作った電気を、遠くの町へ届ける送電線の保守点検をする作業員をラインマンといいます。送電線を支える鉄塔の高さは50メートル。20階だてのビルと同じくらいの高さです。鉄塔のてっぺんまでのぼったラインマン



は、長い送電線を点検しながら次の鉄塔まで進みます。早朝から夕暮れまで、美しい空の移り変わりを背景に、ラインマンの緊張した様子が描かれています。空中で作業するラインマンの姿は迫力があり、とてもカッコよく、コマ割りで描かれた絵から臨場感が伝わります。

知識の本

ヒロシマ消えたかぞく

指田 和/著 鈴木 六郎/写真 ポプラ社
〔210〕【小学校中学年～中学生以上】

広島のはりまや町で床屋さんを営む鈴木さんは、写真を撮るのが好きでした。セピア色の写真に残る笑顔の鈴木さん一家は、仲の良い幸せな家族でした。昭和20年8月6日、鈴木さん一家が

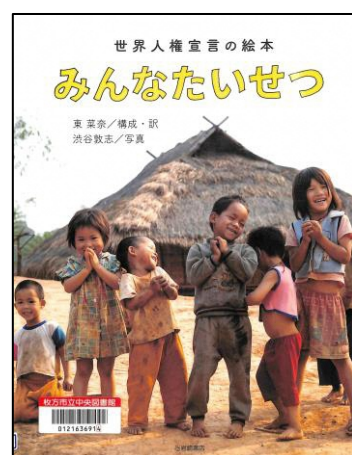


住むヒロシマに原爆が投下されました。鈴木さん一家の幸せな日常は一瞬にして奪われ、一家はだれ一人生き残ることはできませんでした。幸せな家族写真とその後、一家襲う悲劇はどちらも事実です。無数の幸せな家族の生活を奪った戦争の悲劇を後の世に伝えていく本です。今生きている人に、語ることでできない人々の声を写真が語りかけます。本文は英文併記。

みんなたいせつ世界人権宣言の絵本

東 菜奈/構成・訳 渋谷 敦志/写真
岩崎書店 〔316〕【小学校高学年～中学生以上】

1948年に「世界人権宣言」が国連で採択されて70年がたちました。今、この宣言を、読み直し広めたいという思いから、子どもにもわかりやすいように意識した条文に、世界中の様々な境遇の子どもたちの写真を



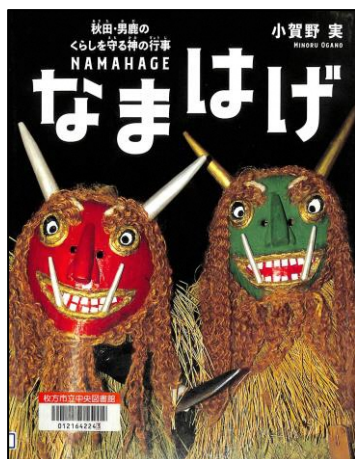
添えてこの本が生まれました。生き生きとした写真を、撮影ノートや条文と合わせて見ると、「自分もたいせつ、みんなたいせつ」という著者の思いが、より心に響きます。世界人権宣言をまとめたエレノア・ルーズベルトや世界情勢についてのコラム、外務省による世界人権宣言の全文（仮訳文）も掲載されています。

なまはげ 秋田・男鹿のくらしを守る神の行事

小賀野 実/写真・文 ポプラ社 386

【小学校中学年～中学生以上】

「泣く子はいねがー！」
「言うごと聞がね、わらしはいねが！」大きく怖い顔のなまはげが家に入ってきて逃げ惑う子どもたち。しかし、家の主人たちは料理や酒でもてなし、楽しくおしゃべりします。



国指定重要無形民俗文化財(1978年)、ユネスコの無形文化遺産(2018年)である秋田県・男鹿のなまはげ行事を、カメラマン小賀野実さんの迫力満点の写真で紹介しします。現在行われている大みそかの行事を中心に、なまはげのはじまり、なまはげ面の種類、日本各地で行われる来訪神・仮装の神々の主な行事なども紹介しています。

火山はめざめる

はぎわら ふう/作 早川 由紀夫/監修

福音館書店 453 【小学校低学年】

火山はふだん眠っていますが、ときどき目を覚まして噴火します。火山の近くで生活する人たちは、小さな噴火でも風の向きによって砂や石が降ってくる可能性があります。この絵本のモデルの浅間山は



過去に何度も噴火しました。昭和時代、江戸時代、平安時代、2万5千年前には山の形が変わるような噴火もありました。古い記録や地層を発掘することで、どのような噴火が起きたのか解明できます。壮大な絵で、火山とともに生きる人たちの生活をタイムマシンで時をさかのぼるように見ることができます。

生物に学ぶ技術の図鑑

生物模倣技術〈バイオミメティクス〉の知恵

成美堂出版編集部/編著 成美堂出版

500 【小学校中学年～小学校高学年】

人間はウマより速く走りたいと自動車を、トリのように空を飛ぶたいと飛行機を発明しました。地球に生命が誕生して約38億年、長い歴史の中で、環境に驚くほど適応し進化してきた生物の形や動き、体の仕組み等、その生き延びるための



知恵や工夫を、人間が模倣しテクノロジーに活かしています。ヒマワリと洗濯機、カジキマグロと自動車等、一見なんの関係もないように見えるものが、身の回りの意外なところで、先端技術のモノづくりとして取り入れられています。生物に学んだ技術はこれからの未来のテクノロジーにも利用されることでしょう。

まるわかり記号の大事典 決定版

調べて楽しい2000種以上の記号がびっしり

太田 幸夫/監修 くもん出版 801

【小学校中学年～中学生以上】

文字の読めない子どもや外国の人にも伝わる「絵文字」は、公共施設、交通機関、食料品や家庭用品などいろいろな分野で使われています。日本で考案され、国際的に通用している「非常口サイン」を



はじめ、暮らしの中で出会うたくさんの記号の意味や役割を紹介しています。国旗や団体のマーク、ジェスチャーや学校の科目で使う文字や記号なども、実際に使われている場面の写真を交えて紹介しています。丸や四角など形から記号を探そうとすることが出来る索引がついているので、家や町で見かけたマークを調べることもできます。